

市民自らの政策を持とう！

第 22 個人演説会 記録

日時 2015 年 1 月 18 日(日)
13:30－17:00

会場 岩国市福社会館
3 階第一会議室

参加者 10 名

この記録はホームページとブログに掲載されます。

<http://www.seisaku1341motou.sakura.ne.jp>

<http://blog.goo.ne.jp/simin13401seisaku>



稲生 阪神大震災の復興がまだ完全でないという状況の中で、今年の家計予算の軍事予算は大幅に膨れあがりました。なぜ、復興のために予算を当てないのか、このことは大きな問題だろうと思いますが、70 年経っても戦後処理が終わってない、日本の現実だろうと思います。本講演会も 22 回目で、基地公害とか、安保問題、原発問題とかいろいろ議論し提言もしてきましたが、私は随分実り多いものだったと思います。

今日は地位協定についてお話していただくわけですが、この問題を避けて基地問題を論ずることはできない、ということがありますので、しっかり拝聴していきたいと思います。地位協定は日本を苦しめている協定の一つですが、みんなで研究しておかなきゃいけない協定だと私は思います。

安保、地位協定の問題に長年取り組んでこられた、田村さんが今日の講師です。この問題は長年国民を苦しめた、片務的な協定であるというふうに私は位置づけています。

安保が上位にあって、地位協定が下にあるとありますが、ほとんど地位協定によって支配されている。それが現実だと思います。安保を、日本が何とかしてくれとアメリカ側に申し出たら、話し合いができることなんですけれども。そこを封じてしまって、地位協定をどんどん推し進めていってしまう。これを陰で使っているというのが地位協定の現実ではないかと思います。そういう意味で田村さんは地位協定を解説するにあたって、「市民生活をむしばむ地位協定」というお題をつけた。大変意味の深いタイトルだと思います。

田村さんが基地問題に取り組んで 50 年その間いろんな事を経験されたと思います。そういう意味で基地問題の専門家というふうに、私たちは位置づけています。

基地問題は非常に難しい局面に直面してきました。「岩国基地」は極東一の軍事基地になるろうとしている。大変な状況になっている。そういういう中で、田村さん自身は敢然と挑戦している、というのが現実でしょう。そういう意味では田村さんは英雄みたいなところがあるでしょうから、田村さんに地位協定問題について語っていただくことは、大きな意義があります。基地に入ることを拒否されたということも、地位協定に関わることでしょ。N さんがひき逃げされたことも地位協定による壁がはだかっていました。

こういういろんな問題が起こっているにもかかわらず、私たちは地位協定をあまり問題にしてこなかった所に矛盾を感じずるわけですが、地位協定は国民をめちゃくちゃに振り回す協定であろうと思います。田村さんは市議員ですが、国会議員がだめな現在、国会議員並みの仕事をしてる市議員であろうと思います。これからもがんばっていただくことを願っています。それでは地位協定の解説をよろしくお願いします。

市民生活をむしばむ「日米地位協定」の現実

田村順玄（リムピース共同代表・岩国市議）

配布資料について 田村順玄でございます。今日は時間をとっていただきありがとうございます。私はどうも几帳面でないんで、適当なことしかしゃべらないんで、皆さんにご迷惑かけちゃいけないと思いが強かったのです。いろいろな書き物に書いておりますように、私はこの8月がちょうど古稀で、一つの節目という年でございます。それに、日本の戦後も70年ですから、同い年、しかも私は8月12日、日本の戦後は8月15日。だいたい一緒の年数ですから、その生きてきた証しをどこかで皆さん方にも聞いておいていただけたらいいかなという思いが出てきましたので、今回本当に恥ずかしい話になるのですが、お引き受けしてしゃべらしていただくという決断をしました。どうぞ最後までよろしくお願いします。

レジュメを作っておりませんが、お正月に書いたレポートがあります。「岩国基地で進行する一大軍事拠点づくり 米軍再編下の岩国基地を巡る状況と闘い」、これを最初のメインにしておいていただき、その中に新聞「おはよう愛宕山」がはさんであります。昨日「阪神大震災20年目の締め」というのがありましたが、あの阪神大震災の1週間後に私が創刊した新聞ですね。その創刊号には、被災された皆さんにお見舞い申し上げますという「創刊の辞」を書いております。それからあつという間に20年。この「おはよう愛宕山」が482号。月に2回ですから、ちょうど20年で482回発行いたしました。その他に、話のネタにするために、今日話になるだろうと思われるものを書いた「おはよう愛宕山」をコピーしてきました。それが8枚ぐらいあると思います。

それから、私はいろんなところで活動しておりますけれども、「ピースリンク広島・呉・岩国」という、約30の都市、広島・呉・岩国をむすぶゆるやかな連携をしている「ピースリンク」という市民団体があるんですが、私は岩国の世話人代表ということで動いております。その初期10年前に作ったパンフレットがあります。

（資料リストは後掲）

これらの資料をもとにして、今の岩国基地の状況は一体どうなってるんだろうか、最初にお話をしたいと思います。

沖縄と岩国基地 この岩国基地はいま、本当に嘉手納基地以外には国内でトップワンになるような大きな基地に成長しつつあります。もう一つの大きな特徴は、ポスト沖縄ともい

うべき立場です。政府が米軍の基地を沖縄に集中しておりますけれども、沖縄を現実的に拡張してというなかで、その際に岩国を徹底的に使いこなしていく、そういう基地にされているということに私は注目して見ております。さらに沖縄県民は、建白書という形で「オール沖縄」ということで、政府に対して物申すという形で、沖縄の基地を縮小していかなければいけないことを訴えました。これは全国の人が誰も異論のないところですが、私は今住んでるこの岩国で、岩国市民がどういうふうに沖縄と東京の政府の間で翻弄されているか、これを少し掘り下げてみなければいけないと思うのであります。

艦載機移転の問題が出てきて、普天間基地の全面返還という話が最初に出て、去年の7月に空中給油機が岩国に来たのですが、18年かかっている。その間沖縄の基地は1cmも縮小されることなく、ずっと運用されながら、さらに並行して岩国がずっとそれに対して、ああする、こうするという話もあったけれど、結果としては政府のやろうとしている施策が18年間何も動かずに現状をずっと引きずってきて、最後に着地したのが岩国ということにされている。いろいろと動いているけれども、実のところは何も動いてないのだということ、もう少し直視しなければいけないと思うのです。

辺野古に海上滑走路を作るというのも、18年前から、普天間基地の全面返還という条件のなかで提起されましたけれど、結果としては10年間、閣議決定の内容を強行しようと政府が一生懸命努力したけれど、できなかった。つくらせなかったんだからできなかった。そういう流れの中で、厚木の艦載機の移駐を2014年から2017年に変更するなることになった。岩国だってああなる、こうなるという話をしてきながら、10年経ってるわけですね。そういう中でこの社会がそのままずっと進行してるんだということを考えれば、結果的にどうなんだろうかということですからごく考えてしまうようなことが多くあるわけです。そういった経過の中で今の岩国基地が動いていることについて、注目しなければいけないのが今の状況でございます。

大きな岩国基地の流れというものでいえば、厚木艦載機部隊を受け入れるということと、沖縄の空中給油機を受け入れるということによって、普天間基地を全面返還という大義名分の中に岩国基地が取り込まれていったわけですが、そのとり込まれていった岩国基地はどういうふうにいま動いているか。レポートの一番裏のページに「岩国飛行場に係る空母艦載機の移駐等に関する予算額」が、一覧表として載っています。この間記者クラブに行ったら、この一覧表が黒板に貼ってありました。これはようまとめている、誰が作ったかと言ったら、基地政策課が作ったのだそうです。1月15日、国家予算が閣議決定される3日か4日前に、この一覧表がすでにはり込んでありました。ですから全部アウンの呼吸で市当局が、国がやることを肯定して全部受け止めている中で、我々が踊らされている気がするのですが、それにしても4000億以上の金が平成18年から今年平成27年（2015年）の国家予算までに計上されているという現実です。

艦載機移駐 岩国市長がいまだに厚木艦載機部隊が来ることに對して、同意をしていないということを議会で明確に言うんですけど、こんなことがそれで通ることだろうか、

呆れてしまうような話です。しかし私たちもそれが当たり前だというような感じですね、今、岩国の街の中が動いている。昨日東京へ行ってこの表を全国の活動家にみせたら、この金額をみてびっくりした。だけでもこんな 4000 億円のことは、沖縄は知らんのですね。岩国に国がどんどん金を落としていく。今の安倍政権だけでなしに、自民政権の頃からずっときている話なんです。これだけの現実をみんなが見て見ないふりをしている状況があるということを、私は指摘しなければいけないと思うんです。

滑走路の沖合移設 こういう具合にいまの岩国基地の流れが進んでいます。私は昨年一年中、いろいろレポートのなかで、2014 年度は 903 億円という政府予算を認めていると書きましたけれど、さらに 1,019 億円という数字が関わってきた。沖縄で仲井真さんが一昨年の暮れですか、「いい正月になる」といって沖縄振興予算 3 千何百億円を毎年もらおうといっで、全国的な大ニュースになったですね。そういう陰で、岩国には 3 年間で 1,000 億円がつく。沖合移設事業の時には、年末の予算折衝で、以前の市長さん等が、中央へ行って最終的な陳情に行っで、昨年も 12 月 28 日頃に沖合移設予算が何億円かつかしました。毎年毎年ついていましたけれど、それを肯定する、しないは別として、沖合移設事業に市民の悲願という枕詞をつけて、交付金を求めてきたので言え、ある程度市民に少しは繋がっていた予算かもわからないですね。しかし、今のこの 1019 億円は岩国市民にはいっそ関係ない。これで大喜びしてるのはゼネコンだけで、今年はこれだけ仕事がもらえる、もう 1 年従業員を首切らんで済むという形で、岩国で仕事ができるということになっていると思うんです。

この岩国の基地の中をどのように建設をしていっでいくかということも含めて、全部タイムテーブルどおりにやっでゆく。これが一段落したら次はどうなるかといえ、ゼネコンとかは決して岩国だけに出るわけではないから、例えば武器をインドへ輸出する。武器三原則というものを撤廃して、輸出するときだけは武器らしい項目を外して、インドへ輸出していっで、インドはそういう機能を皆つけて武器として使う。ですから沖合移設事業が岩国の土建屋さんが仕事がなくなっでも、政府は決して困らない。我々は全部政府の掌の上で踊らされているだけです。そういうふうなところをよくとらえた上で、岩国基地の今の流れを見ておかなければいけないと思うんです。

今の岩国基地の状況を、例えば今日一緒に来ておられます戸村さんなんか、ほとんど毎週、月曜日から金曜日までの朝から夕方まで監視をして、岩国基地の動きを見ていただいております。我々にとってはもう基地は裸なんです。隠されるものは何もないという状況です。そういう中で基地の中がどんどんどんどん改造されつつある。それが国にとってはどういう形で岩国の町と結びついていくか。結局最初のご紹介にもあったように、岩国基地がまったく市民生活とは相容れないものであるということを確認できるのではないかと思うのです。

私と岩国の戦後 70 年 戦後 69 年、今年が 70 年目ということでありますけれど。私は岩

国に 1946 年、満州から引き上げて帰りました。0 歳で帰ってきて、それからずっと岩国で生活しておりますけれど、私が成長する過程がまさに戦後の日本、中国地方、岩国の近くに住む市民の生活と全く同じ年数で、同じ流れで生きて来たという感じがいたします。そういう中で一緒にだんだん年をとってきているというところで見えてきた事が今の私の思いであれば、それを具体的に地位協定との関係で話すということであれば、地位協定の条文とか地位協定の仕組みで、我々がどういうふうにされているとか、そういうところから考えれば、市民生活にとって地位協定は関係ない。米軍にとって地位協定がある。どっちの立場で批判するか。今までの 70 年の流れから言えば、我々市民は、地位協定によって迷惑をこうむっていた。そういう歴史ではなかろうかと思う。地位協定があるからどうのこうのと意識して生きてきたつもりはございません。しかし、その流れの中ではその時その時に、岩国市民はその仕組みにしっかりととりこまれていた、それが実態ではないかと思う。

愛宕小学校の先生と米軍 小学校の 4 年生のとき、私は愛宕小学校に通っていました。当時の愛宕小学校は日教組の巣窟のようなところでした。私たちが習った先生は、今 80 代になっておられます。当時の先生は愛宕小学校時代からずっと大変な日教組の闘いの先頭になって取り組んでこられた方ですから、よく思い出しますが、今日は先生方の大会がある、先生方の研究会があるということで、授業がよく自習になっていた。校長先生まで組合員だった。岩国市史とか、岩国の昔話とかいろんなことを研究されていた、O 先生というのをご存知ですね。私が小学校にいたときの校長先生です。O 校長が配転になるということになったんです。そしたら私たちの親みんながこぞって学校に押しかけて行って、そして学校から教育委員会へ乗り込んで行って、O 先生の、校長先生の配転を元へ戻せという大闘争をやったのです。そしてとうとう O 先生の配転が中止になった。そういうふうな先生方ばかりでした、私が習った先生は。同じ 1 年間の全校のクラスの先生がたは、ほとんど県の教育委員会や市の教育委員会執行部の先生ではなかったのですが、日教組の運動の結果としてはヒラで終わっています。せいぜい教頭先生ぐらいで終わっていますね。私は 6 回目の選挙を昨年 10 月にやりましたけれど、選挙の後援会長をやっていたのは、その時の愛宕小学校の先生です。

「投げ銭事件」と F 先生 F 先生とおっしゃいますけれど、その先生の持っていた学年が、私が小学校 4 年の時、F 先生は 5 年担当でしたが。その 5 年の生徒が、愛宕小学校から国道 188 号線を駅の方のどこかへ全員が歩いていいたとき、校外学習の行事で国道 88 号の川下の前を通過して、駅の方に行く時に事件が起こった。全国に報道された「投げ銭事件」。岩国基地の米兵が川下の方向から尾津にある基地の倉庫へ行くトラックの上から、列をなして歩いている子供たちに、お金をばらまいたんです。子供たちはお金ですからみんなが列を乱してそのお金を拾った。先生が必死になって止めた。集めたら 7-800 円あった。当時としては相当のお金ですね。それを皆戻したんです。そしたら米軍は、そんなものいら

ないから好きに使ってくれと言った。そういうことが当時ありました。

戦後ではあるけれど、また基地の町ではあるけれども、大変な事件だったと私は思うんです。そういう事件が私が小学校4年の時に、一つ上の学年で起こったということについて考えればですね、本当に岩国市民というのはそういうことにまで遭遇してたんだなということを感じました。

そのお話ができればと思って、その時のF先生に先日お願いして、その時の事件の父兄に配った手紙を見せていただきました。「5年生の父兄の皆さんへ」という、その手紙の中にその時の事件のことが生々しく書いてございました。F先生のクラスが書いた手紙です。こういうことでしたという顛末が書いてございます。そういうふうな事件でありました。そういうことも地位協定に関わってくると思うんですが。

それからもうちょっとして、学校の先生に対して「教育2法」という法律が作られたんです。これは何かといいますと、岩国のその先生方が中心になって「日記帳」というのを作ったんですね。「赤い日記帳」という事件がありまして、有名なのですが、これも岩国の名を全国に轟かせたのですが。とうとう岩国市の教育委員会が国会まで喚問されたという話があるんです。警察予備隊、自衛隊ができる時なんです。その時「戸締り論」というのが書いてある。警察予備隊ができることを批判した内容がその「日記帳」のなかにあったんです。そしたら教育委員会が全部回収命令を出した。その日記帳をですね。岩国の先生方は許せないやつだ、山口県の先生は許せないやつだ、という事になって、それがきっかけで政府、当時の文部省が教職員の活動を制限する「教育2法」という法律を国会で作らせた。それぐらい大変なことを私は4年生、5年生のときに学んでいます。

それぐらい先生方がみんなで頑張っておられた時代なんですけれども、当時はそれが自然な形として生きてきたのですけれども、それがだんだん右傾化して行って、今のよう状況になったということだろうと思うんですね。そういった中で地位協定で市民の生活が蝕まれてゆく実例を若干お示ししたいと思います。

米兵乗用車の特例 岩国市には5000人米兵がいますけれど、そのうちの約1000人ぐらいが基地の外に住んでいます。防衛省のホームページで、基地の外に住んでいる外国人の人数が一覧表で出ています。毎年5月頃に出るんですけれど、その資料によりますと、岩国では約1000人の米軍関係の人たちが基地の外に住んでるんですが、車運転の国際免許のようなものもないわけですから、米兵が岩国で安い車を、何年かしかいないのですから安い車を乗り歩いています。そのために地位協定という制度があって、普通車はYナンバー、軽乗用車はAナンバーという、そういうナンバープレート制度になっている。地位協定によって特別安い税金を払う必要もない。8000円ぐらいの金額なんだそうです。そのことを議会で質問しましたので、「おはよう愛宕山」に書きました。

このYナンバー車の問題に熱心に国会で取り組んでおられるのは、今回もたった2人しかいない衆議院議員の1人です。照屋寛徳先生が、一番熱心に沖縄で取り組んでやっってもらっているんですが、これが2004年のときに7500円という税制、約4分の1から5分の

1 税金を払えばいいという地位協定がある。普通車の場合は県税ですから県ですね。それから軽乗用車の場合は市税ですから市ですね。不足分が来るのかどうかということを議会でいろいろと聞きました。市は交付税でどうのこうと言いますが。結果的には明確に市民の負担に変わる。ちゃんと市の財源として措置されているとは私は思ってません。しかし、彼らにとっては安い税金で簡単に車を買うことができ、市内を走りまわってる。これが地位協定のすごい特権なんですね。

日本の道交法ではまだいろんな規制がありまして、車を買うときは車庫証明というのを絶対につけなきゃいけない。警察がわざわざ来て車庫を確認する。もちろん今は業者が代行して適当に車庫証明を取って、何回も変える人もいるんですけど、それにしてもキチンとした手続きをして車庫証明も取らなければいけない。車の後ろには車庫証明の証書がちゃんと貼ってあります。しかし米兵が乗る Y ナンバーや A ナンバーの車には、車庫証明は貼ってありません。照屋寛徳先生は国会でこれを追及したんです。そしたら道路交通法の中には見逃す特例はないそうです。地位協定があろうとも、車庫証明が要らないということは日本の法律にはないそうです。それを特別に見逃がすというのが今の政府と米国との関係なんですね。

岩国基地には 1500 人ぐらいの日本人従業員がいます。基地に毎日働きに行っています。基地の中はものすごい厳しいんだそうです。道交法の規制がですね。USMC というのですか。ステッカーがついてます。それを気が付かれた方がおられるかどうかわかりませんが、フロントガラスの前に貼ってある。日本の道路交通法では、そういうステッカーを真正面に貼ることはできないんです。よく皆さんの車を見ていただきたい。車検の関係の証標だけは一番上に真正面の上にちっちゃいのがあります。それだけですね。それ以外はフロントガラスの前面からみてチェックできるようなところには貼れないんです。視角が悪くなるからいけない、そういう理由です。それで貼ってはいけないんです。しかし基地に出入りする車だけはこれを前に貼っていいという特例があるのです。岩国基地で、セキュリティーの関係で入口の憲兵や監視の人がよくわかるように、いちいち止めなくてもわかるように、その商標を前のフロントガラスに貼れるという。それぐらい事細かく地位協定では米軍のためにそれを許すということになっている。これも地位協定で本当に不公平な扱いではないかなと思います。

米軍属の自動車事故 彼らは本当に短期間こちらに来ていただいたことも含めて、Y ナンバーの車や A ナンバーの車に乗って市内で盛んに交通事故を起こしている。そういうことも現実に行われている。N さんの事故もそうでしたけれど、その結果どうなったかといえば、結局ほとんど処罰されずに、通勤の時も、半年間も規制を受けたにもかかわらず、事故後の措置を寛大にとって、もちろん形の上ではすぐ逮捕して拘束しましたけれど、あっという間に数時間で解放することになってしまったんですね。車一つとってもそういうふうな状況が現実である、ということが見られると思います。

電波障碍

先程、岩国基地の外に約 1000 人の米兵家族が住んでいるといただきましたけれど、2011 年 12 月 12 日の「おはよう愛宕山」408 号に私が書いている記事を見られたらお分かりだと思いますが、私は「劇団のんた」という演劇をやっています。演劇の方に興味を持っていますけれど、少しは有名な劇団などを公演しなさいよと言ったら、岩国市の教育委員会がですね、生涯学習課が約 500 万の予算を作って「劇団四季」のミュージカルを「シンフォニア岩国」で上演するという事を決断したんです。もうほとんど決まっていたのですが、最後の段階になって、劇団四季側からですね、「岩国ではできません。その公演はキャンセル」という形で計画が流れたのです。いろいろとあったんですが、ワイヤレスマイクが使えないというのです。「劇団四季」などの大型ミュージカルではですね、40-50 本のワイヤレスマイクを使わなければいけない。もちろん劇によっては、新劇などでは生の声でやるということで、それが自慢なんですけれど、「劇団四季」や、宝塚、吉本新喜劇とかはマイクをつけてやるんですね、みな。ちっちゃな声でも大丈夫なようにやるんで、そのマイクが必要なんです、40-50 本。普通ステージでやるものでしたら、4-5 本です。一つの音を一つのマイクでやるんでしたら、ひとつのチューナーがいるんです。ですからたとえば 5 本のマイクで 5 人が混線しないで使おうと思ったら、ある特別に許されたメンバーで、総務省の電波 5 本の 5 台のチューナーが着いたワイヤレスの拡声器をそばに置いておいて、それで初めてワイヤレスマイクが使えるんです。50 台のワイヤレスマイクには 50 台のチューナーがいるんです。A という役者、B という役者、C という役者ぐらいならそれは出来るのですが、50 人の人がそれぞれしゃべるのを管理するというのは、まず普通ではできない。

「劇団四季」のオペラ公演中止 どうすればいいかといえば、ワイヤレスマイクの専門の業者がそのたびに東京から来るのです。そしてその装置を据えて、それからすべてに識別の番号か何か合図を作ってですね、それでこのマイクのパートの人はこちらからということで、そこはすべて勧進元の音響調整担当者が 50 台のマイクを全部調整する。そういうふうにやるんですけれど、電波がすごく微弱ですから、例えば近くを同じような電波帯のタクシーが通ったら、ひょっとしたらステージで公演してる時に入る可能性がある。それで総務省は、厳格な電波帯の枠を作ってですね、許可をして 1 回 1 回公演のワイヤレスマイクのセットを使うには、総務省に許可を取ってやるんです。その許可が下りなければ使えないんですね。「劇団四季」は、シンフォニア岩国ではその許可が総務省から降りない、ということで、ここではできません、ということです。興業は商売にはなったんですが、こらえてください、ということになったんです。

それは何事ですか、ということになって、私はいろいろ調べてみたんですが、そしたら、岩国基地があるからです。岩国基地で飛行機の電波を干渉するんかといったら、それぐらいだったら国家防衛のためと言われている田母神さんが言ったら、総務省を抑えられるかもしれない。いろいろ調べてみたらですね。1000 人住む基地の外の米軍家族が見るテレビ、

それを基地から特定の電波を出して送っているんですね。その米兵家族用のテレビチャンネルと混線する。基地の外に 1000 人住んでいる米軍の家族の家庭でみるテレビのチャンネルと、シンフォニアで使うかもわからないワイヤレスの電波帯が一緒だったんです。それでだめなんです。結局は 15 万の市民がミュージカルが見られないのは 1000 人の米兵家族のためだったのです。

そういう地位協定という形で米軍のために保護している。それによって岩国市民は東京で見るようなミュージカルさえ見ることができない。そういうことがありました。私もシンフォニア岩国の運営委員というのをやりましたので、そのことも言いました。2011 年の 3 月 11 日に国会で決算委員会かなんかがあったんですが、教育の関係の委員会、その時私はその内容をつぶさに整理して、当時の民主党参議院議員の藤谷先生にそのことを国会でやってくれやというお願いしたら、2011 年 3 月 11 日の 10 時頃、国会質問でそれを取り上げてくれた。当時総務省の副大臣だった平岡さんがですね、答弁に立ってですね、いろいろと調整質問をやったんですが、流れがどんどん来て、米軍側の電波帯を変えるということになって、やっと今は OK になったんですけれども、国会まで持っていかなきゃいけないとか、シンフォニアがわずか 1000 人の米兵家族のために翻弄されるということはあるんじゃないことだと思います。そういうふうなことが現実のこととしてあるんだということを、一つの例として紹介いたしました。

基地内の廃油焼却 1997 年 7 月 20 日の 67 号「おはよう愛宕山」があります。62 号というのがありますけど、これも地位協定中で特にうるさいという。今回の第 82 号の「おはよう愛宕山」の下の「立ち話」にも書いてありますが、基地の消火訓練。私は米軍の「自由情報法」というアメリカの情報公開法を基にして、基地内の消火訓練について米軍の情報公開を請求しました。そしたらその回答がきましてね、自由情報法で私が請求した情報は市に求めよ、という。そしたら 1996 年 1 年で 57,600 リットルの油を燃やされていた、ということがわかりました。消火訓練といえはいかに何か耳障りが良い話でありますけれども、岩国地区消防組合がですね、米軍がやってるのと同じ訓練をやるときは、年に 2 回です、たった。それも裏番と表番とがありますから、年 1 回です。岩国基地の消防組合の職員がですね、基地の中で同じ訓練をやらしてもらおうんだそうですが、一般的には常識でですね、ほんとに火を燃やしてそこに助けに入る、耐熱服を着て消火する、それから、基地に墜落した飛行機だとか大事故のフォローの中で助ける。これがメインなんですけど、こういう作業をする訓練は年に 1 回やれば十分です。全国の地方空港でも、年に 1 回ぐらいやります。飛行場には赤い自動車、大きなタンク車などがおりますから、そういう訓練はやらなきゃいけないと思うんですが、しかし岩国基地に関して言えば、それが常識的にちょっと考えられないぐらい多い。

岩国基地のフェイスブックを開いてみますと、1 月 8 日の記事にですね、「明日焼きます」と書いてある。それでフェイスブックの中のその記事をこの 2 ヶ月 3 ヶ月開いて見てみたんですが、月に 3、4 回あるんですね。きちんとやるんです。けれど、大変な量の油をまい

てですね、消しに行くという訓練をやるわけです。いちいちそんなことをやる。いくら訓練といっても、経費がかかりますからね。油も燃やせば安くないと思うんですが、ただそれだけやるというのは何かおかしいと思ってみたら、どうもこれはいらなくなった航空燃料を燃やしている。それはどうしてだろうと、もうちょっと掘り下げてみた。例えばコップによく冷えた水を入れておいたら、その外に水滴がつきます。「結露」と言いますね。飛行機のタンクに入れた油で飛行機が 1000m、2000m 飛んできたら、結露で水分がでる。油に水がまじったら大変なことになる。それで使えなくなるじゃないかなと思う。

なぜ大量の廃油ができるのか 高校 3 年の時にですね。西岩国の商店街でですね。私の同級生の S 君という家具屋の息子の工業の同級生がいた。彼の紹介で大売出しのクーポン券で錦帯橋の河原からヘリコプターに乗って グルッと遊覧旅行をするということがあった。2 日間ほどやったんです。一晩ほど河原にヘリコプターを置いておくので寝ずの番をしてくれという。アルバイトで河原で寝ずの番をやったことがあるんですが、その時についてお客を乗せてやるヘリコプターの遊覧飛行のお手伝いをしたんですね。そこへドラム缶が何本も置いてある。2、3 回つくたびにヘリコプターに油を注入するんです。そのたびにヘリコプター・チャーター会社の人やるんですが、ガス管を 200 リッター入ってるドラム缶に差し込んで、その油をビーカーに出してみる、水が入ってないかチェックするんですが。なるほどなと、その時にそのことがやっと結びついてきたんです。水の入った油は使えないから、廃油になる。年間 57,000 リットルのドラム缶とはすごいですね。

私らは、全国の基地のある町にそういう訓練をやっているか問い合わせで一覧表を出せと市にお願いしたら、ほとんどないんですね。岩国だけでやっていいということにされているのではないか、というふうな。とっても不愉快なんですけれども、結果としてはそういうふうなことになってるのじゃないかと思うんですね。

つい最近もですね、すごい煙が出たと言われています。それも 60 歳台、70 歳台の人がいう。これだけ毎週毎週やってるのに、それに関心を持たずにみんながやってる。これは何かと言えば、戦後 60 年 70 年、岩国基地という基地の町に住まわされてる、基地がやっていることについては寛大なのだ、という結果ではないのかと思うんです。そういうことで消火訓練という名目で廃燃料処理をしているということで、結果としてはあけて通している、ということになってるのではないか。これを市民生活にたいへん身近な問題としてやめさせることは、これほどみやすいことはない。周囲がみんな言えばできることであって、一定の歯止めをかけさせることができるのではないか、よその町と同じように、というように思いますので、それをできるだけ宣伝しなければいけないと思っています。

ですから私は 95 年に市議員になった時、最初の質問でこれをやりました。最近では定期的にやっているんですが、なかなか思うように話が伸びてこない、というのが現実です。そういったような、目で見える、市民にもわかる大きな話があります。

基地の仕事の経済効果 それから、財政的な問題というのをひとつお話してみたい。岩国

基地によって、経済界に一千億円というお金がついても、岩国市民の生活には何の影響もないですね。岩国市民にとって影響があるのは交通渋滞とかぐらいしかない。下請けの業者が、若干、それだって基地の道路予算でやる基地の中の仕事はめったなことではやるもんじゃない。大変なんです。大島の Y 産業というのがあります。あれなんか基地専門ですね。通訳を雇わなきゃいけない。それから、1-2ヶ月前に制度が変わったんですか、基地の中の工事をやるためには保証金を積まなきゃいけない。最近すごく安くなりましたね。それも経済界はすごく要望してる。それに、福田市長は、国にたいしてパイプがあるというふうなふりをして、いかにも市長の立場を良くするということで業者にいっぱい献金をもらったんでしょうね、ポンドという保証金を少なくする。やりやすくなったんだそうですけれど。それにしても、出入り業者は徹底的に叩かれるという。よっぽど精通するか、賄賂を出さないとやれない、基地の仕事はですね。ケツの皮を剥かれるというぐらいになる。業者が話してくれました。

そういうことであまり得になることはないんですけど。岩国市民は、じゃ基地があることによって経済性はどうかと言えば、例えばこれだけ多くの仕事が落ちている、1日に1000人以上の人があそこに仕事に行っている。それだったら市内の業者の売る弁当を大量にお昼に食べる、ゲートのなかで仕事するんですから弁当なんですね。持参する以外は。その弁当を納入する業者は、たとえば生コンもそうですけれど、弁当納入なんか組合というのがあるかどうか知りませんが。もっと団結して一つの力にならなければいけない。しかしそれも聞いたことがない。これも聞いた話ですから。あまり確実な話ではないんですが、例えば広島からくるゼネコンさんは、それについてくる業者がいる。そういうお話をもっぱら聞きます。弁当まで岩国で買わない。そんな話があるんです。

それから、旭町を通る車のナンバーを見たら、県外がすごく沢山いる。愛宕山で13年間土砂を取って住宅供給の工事をやりましたが、これだってほとんど岡山です。戸田組だとかそういうところからきている業者。岩国の地元の車のナンバーじゃない。地産地消と言いながら、そういうもので潤うべきものは何もない。

基地の固定資産税に相当する交付金 最後に税金なんです。岩国市に落ちてくる。議会で質問したんです。調べてみて、これも平成17年までしかこの一覧表には出ておりません。どれぐらい金が入ってくるかと言いますと、決算書で全部やってみたんです。基地交付金で幾らか、それから調整交付金が幾らか、それから国の予算で幾らか、それから岩国市に入ってくるので幾らか、それから岩国市の一般会計のレベルですね。それからもう一つは、固定資産、それがいくらかを拾ってみました。これは全然ない。そしたら基地は所在市町村。JRと同じように線路が走っている町は、線路に見合う交付金が下りるんですね。国鉄の時代に。基地も全国の所在市町村に固定資産税に代わる交付金というのがあるんです。自由に使えるお金です。その金額を全部拾ってみました。固定資産税と所在市町村の交付金というのが幾らかというのを。固定資産税に見えるだけの基地はいま750ヘクタールがありますけれど。その中に家が一軒一軒あります。

市の課税課はですね。航空測量の航空写真を、職員がピンでつきながら見ているんです。1月1日付で課税しますね。だから12月の29日まで。御用納めになっても課税課の職員だけは28日の御用納めから31日まで仕事に出る。その間に新しい家が立って引っ越したら、1月1日づけで課税の対象にする。そこまでシビアにやっている。市民の税金は。

それだけやってるんだったら、米軍に対する税金は、年に900億円の投資をして格納庫ができて、いろんな装置ができて、何ができて、一軒一軒全部課税課が行って、これはヒノキの柱とか、これは総ステンレスだとか、全部家の価値の金額を出して、それで固定資産税を取らねばいけない。今岩国市に入っている基地の固定資産税に見合う交付金は約17億円です。

その金額をずっと見てみていたら、合計というので、4番目に基地交付金というのがあるんですが、例えば昭和56年に10億円なんです。この基地交付金の固定資産税分が。それから、平成17年まで約20年あります。その時に11億、1億しか増えてないんです。20年間で。基地の中の固定資産税に見合う施設がどんどん拡充されていながら、それに見合うような固定資産税は入ってないんです。やっとな今ですね、ここでいう平成17年14億となっていますが、去年ぐらいの計算で17億ぐらいになっている。3億しか増えてない。

あれだけの投資をして基地の中に家を作って施設を作りながら、固定資産税に見合う交付金はもらえてない。だいたい私の試算では、昭和55年56年、市の固定資産税の総額が38億7000万円、同じように平成17年に91億4000万、3倍に増えている。固定資産税の方は基地からもらえる交付金も3倍に増えなきゃいけないですね。単純に計算して。それが片方は1億しか増えてないですね。それぐらい明確にはなっていない。全国の基地にたいして政府が年間300億円ぐらいの基地交付金の予算計上をする。

課税をやられた方はわかると思いますが、家の税金の評価は3年間変わりませんね。基準財政基準外というんですか、3年間大体変わらないんです。この3年間というのをきちんと守って、政府の全国の基地交付金の額が3年間は据え置きなんです。総額がですね。だから3年間は増えない。いくら仕事が増えても施設が増えても増えない。そういうような形でずっとやってきて、しかもそれでも幾らかもらえるけれども、岩国市がきちんと法に基づいて、土地の地価を評価して、評価委員をつかって、それで土地の価格を出してやった場合の3倍に増えてる額に比べれば、わずか何%しか増えていない。それが基地財政の現実なんですね。こういうような不本意な額で、我々は甘んじるとというのが、市の財政的な形なんです。

私はそれを議会で質問してみました。そしたらですね。360号というのがあります。2009年です。岩国市に試算してみてください。基地の固定資産税を市が試算したら、議会で答弁したのは42億円。しかしその年に16億円もらっている。これでは歴然たる差があるという事がわかっているということです。今いろんな形で、基地からああしてもらってます、こうしてもらっています、と言っていますけれど、歴然としています。これを解消しやっけないといけないと事と思います。そういう理不尽なことはあけて通せるものではないと私は思うんです。

平和産業と基地にたいする地方交付税 何年か前に質問した事があります。そしたらですね。当時の財政課長が言ったことはですね。地方交付税で国が補填してくれていると。私が言った理論はですね、基地を全部返還してもらって、そこへ平和産業を起こしていったら、帝人のような会社をたくさん作っていったら、そこで経済成長というものが起こってくる。それで金が出てくるから豊かになるんじゃないか、と提案したら、その時の財政課長が答えたことは、いや地方交付税がちゃんともらえますから、別にそこまで工場ができなくても、工場汚染、汚い煙が出て、町が汚れるよりは、交付税が入って、それで同じ金額が市の収入になるんだから、それでいいじゃないですか、そういう答弁をしました。これだったら全国誰も何もせんでもいい。

国の集めた税金を全部集中して取って、足らざるを財務省が印刷して、裏付けのない国債をどんどん発行して、そのお金を交付金として地方に流せば、地方は全く公害のないきれいなクリーンな街がずっと継続されるという、そういう理論なんです。働かなくてもその方がいいという、そういうことを私の質問に答えた。調べたらわかります。記録があります。そういう答弁がありました。これもあきれ話だなと思ったんですが、結局は政府には竿さすなということだと思いますが、「ええじゃないか、現状を肯定しておけば、あまりガチャガチャやらんでもいい」、そういうことなんでしょうね。そういうことが安保条約の体制の中で、地位協定の体制のなかで、まかり通るということなんです。

中国山地の低空飛行 軍事の問題で言えば低空飛行という話があります。例えば岩国の空を飛行して、その飛行機が中国山地や四国や九州に飛んで行って、低空飛行をやるということが通常のこととして行われている。2010年11月21日 この「おはよう愛宕山」に書いたことは、現地に行って目撃した話ですから。間違いないと思いますけれど、浜田市にですね、工業団地を作るということで山を開発したんです。約30ヘクタールぐらいの山を、中国山地の山を平地にして工場誘致をしたんですが、結局はだめだった。破綻したんですね。それで結局どうしたかという、刑務所を誘致して、そこに刑務所を作ったら、その刑務所の壁をめがけて突然、山の中に平地ができてターゲットになった。それで岩国基地の飛行機が出かけて行って、その刑務所の壁を目標にして、低空飛行訓練をやるのですね。日に何回もやる。

何が起こったかといえばですね、社会復帰促進センターという、民間が受託した刑務所なんですけれど、やはり囚人ですから逃走しちゃいけない。刑務所の壁にセンサーを付けた。囚人がよじ登って逃げたりしたらセンサーがなるようになっている。岩国基地から飛んでいった低空飛行の飛行機がこの刑務所の壁をめがけて急旋回していく。何回もやった。音波が生じて刑務所の壁が、囚人が逃げたという表示をする。サイレンが鳴る。何回もやるというんですね。とうとう刑務所側は、米軍機が飛んできたらスイッチを切る。こんな馬鹿なことはないと思うんですが、そういうことが現実には浜田にあるんですよ。

オレンジ・ルート 1999年11月7日117号の「おはよう愛宕山」にあるんですが、リム

ピースのホームページに私がかいていますが、98年だったと思うんですが、岩国基地のホーネットが2機編隊で高知の沖に飛んでいったんです。そこで通常の訓練をやろうと思った。KC135という、KC130よりも一回り大きい嘉手納基地の空中給油機、空中給油してもらおうと思って行ったんですね。そしたらその時に接触事項を起こして一機が墜落したんです。

その墜落したNA18機ホーネットの事故報告書が翌年できたのがこの記事なんです。私が今代表をやっているリムピースが入手したんです。約400-500ページある英文の丁寧な事故報告書なんです。それを全部通し読みしてみたらですね、その飛行機のその日の飛行予定が書いてある。その飛行予定を調べてみたらですね、和歌山県から高知県の東洋町というところまで、東洋町から西条の賀茂発電所というのがある。それから瀬戸内海を渡って岩国に帰る、こういうルートがある、ということがわかったんです。そのルートをよく調べてみたら、俗に言うオレンジルートなんです。

この事故報告書の結果によって、初めて米軍にオレンジルートというのがあることがわかった。この報告書の記事の中で、オレンジルートの北緯東経のポイントを打つて、ABCDEFGHのポイントですよ。ルートのポイントがある。そういうことをやってるところと分かって、私はすぐリムピースの仲間と一緒に、四国の西条から東洋町に向かって、車で同じルートを通ってみたんです。そしたらまさに早明浦ダムというところに来た。ここで「西部住民の会」や「瀬戸内ネット」が現場調査をやりましたね。やってくれましたけれど、99年にそれを私はやってみたんです。そういう形でオレンジルートというのがわかったんです。いろいろ整理して、私はリムピースという市民団体を作って、低空飛行を全部告発して、本も出しています。

「フライデー」という、ヌードが沢山載っている写真週刊誌があります。この週刊誌にですね、こういうページが載っています。これは岩国基地のハリアーの作戦室です。岩国でハリアーが今から訓練に行きますよという時に、打ち合わせをする部屋なんです。この部屋の後ろにかけてある地図、この地図の中にその低空飛行のルートがきちんと書いてある。それがあつたんです。これはこの本に出たものです。この写真を撮つたYさんという写真家が著作権持つてゐるんですが、実はリムピースは、日米安保というYさんが出した本を、その単行本を入手してみよつたら、ちっちゃいA6の単行本なんです。その中に名刺ぐらいの大きさのこの写真が載つていたんです。よく見たらこの写真だったんです。びっくりして照会をかけたんですが、本人は知らなかつたんです。本人に言つたらですね、これは大変だということで、本人が自分のネガをもう1回焼いて「フライデー」に持つていって、もう一回紹介した。そういう記事なんです。低空飛行というのが今、白日のもとにさらされている。

しかし2年まえ、オスプレイが岩国で陸揚げされる6月頃ですね。2012年の「環境レビュー」でそれが出ました。かなり厚い数千ページの報告書。アメリカ海兵隊が自主的に「環境レビュー」というもの作つて、「環境レビュー」の中では「被害はない。問題はない」ということをいって、オスプレイを持ち込むということを天下に示したのです。その時の「環

境レビュー」に、私たちが告発した低空飛行ルートが全部出ていたのです。それで今やそれは、確実なものとして出ましたけれど、「環境レビュー」の中に載ってないのは、ブラウンルートだけ。中国山地の。それ以外は全国のどこをどういうふうに飛びますよということが詳しく出たんですね。今では内緒事ではなくなりましたが、そういう低空飛行を行っている。地位協定があるばかりに、高度制限というのがある。150メートルまで普通。60m とが 30m とかいう高さがありますけれど、それが 3 年前ですか。津山の土蔵を倒壊させた。そういうようなことがいっぱいある。

基地への立ち入り拒否 1 時間半なのでそろそろおしまいになりますけれど。実は一昨日岩国基地の発表で、海上自衛隊第 31 航空群と海兵隊岩国航空基地の「フレンドシップ 2015 航空ショー」というのが、今年も行われますよ、とメモが出ました。見たらびっくりしたんですが、海上自衛隊と共催で、5 月の基地開放デーを 5 月の 3 日にやるというのです。これまでは「子供の日」でした。それが安倍総理の一つのお声がかかりだと思のですが、「憲法の日」に挑戦してくる。憲法の国民投票が行われることに間もなくなると思うんですがね。憲法というものを俎上にどんどん出してくるということが見え始めたのです。で岩国基地開放デーには、これから素晴らしい計画が固まってくるのでしょう。期待をしておいてくださいと。これは大変なことだと思います。

実は 4 年前から、私は海上自衛隊、岩国基地のどちらも入場することができません。20 万人、10 万人という方が米軍基地に入って、大変な鳴り物入りで PR するにもかかわらず、その何万人も入る人の人別をして、私を入口で阻止をするということをやっているんですね。これはただ私が入れないからということではなくて、これがどういう意図があるかということをやっぱり見ていかなきゃいけないと思います。今年のオープンデーがこういうふうに変わってきたということも含めて。これから長生きしてとりくんでほしいのは、私が入れないというのはスケープゴートをしてるということです。

基地にですね、「メディアクラブ」というのがあって、たとえば新聞社は、基地が招待する行事にはどんどん行きます、まじめに。今年の 1 月 9 日ですか、初飛行を海上自衛隊がやりましたけれど、それにみんなが行って、翌日すべて「メディアクラブ」で同じ記事にする。K2 が訓練したという記事がテレビにも新聞にも出るんですね。簡単に言えば、経験するという、飛行機に乗せてもらえるから喜んで行くんですよ。だれでも参加できないところへ彼らはいって、優越感をもってオスプレイの試乗をする、それをやっているとというのが大きなポイントだと思います。そういう中でマスコミと同列にする必要はないけれども、この人と、この人と、この人は基地にはいってはいけませんよというのはやらない。しかしとりあえず田村だけは入れないということで、見せしめにして、それでいいんだという感じでやっているとすれば、これは大変な問題だと思う。それは問題があるということをや、どなたも声に出して言わないということは、スケープゴートを肯定していることになる。うまく乗せられている話だと思う。一番基本のキですからね。たったひとりでも入れないということをや、たとえ私がそれを言わなくても、おかしいじゃないかということをや物申し

ていくということは、市民生活の流の中で出てこなければ、私はおかしいと思う。そういう視点で基地の問題に取り組まない限り、地位協定の問題すべてをいくら論じても、私は前に一步も出るものではないと思う。そういうことを絶対にあけて通してはいけない。きちんと取り組んでいただきたい、というのをお願いしたい、それが最後の私の訴えなんです。

岩国基地の入場拒否をされた問題を私はいろいろと調べまして、米軍基地入場拒否について、こんなにファイルがあるんです(右写真)。いろんなことがいっぱい、私に関してのことが。岩国基地なり情報公開せよということをお願いやりまして、英文で堂々と基地から回答が来ています。だけれども中身はなんにもない。「私たちは別に大したことはやってません」ということで、中には公職選挙で選ばれた私に失礼な事があってはいけないともいう。そう言いながら、大変失礼なことを現実にやってるわけです。



しかし私が幾ら頑張っても、私がいろんなことを問い合わせしても、調査しても、私だけを押しえておけば何とかなるといふ。だからかなり広範囲に抗議していただかなければおかしいと思います。そういう思いを申し上げて、あとは皆さんと話しあっていきたいと思ひます。どうもありがとうございました。

配布資料

岩国基地で進行する一大軍事拠点づくり：米軍再編下の岩国基地をめぐる状況と闘い

田村順玄（特集 2015 年を平和と人権の年に）

おはよう愛宕山 No.62(1997.7.20); No.117; No.228; No.360; No.378; No.408; No.,428;
No.474; No.481; No.482(2015.1.18) 田村順玄発行

岩国基地、過去の構想と今（1）「辺野古新基地」建設の企みと岩国基地強化 田村順玄

海上自衛隊岩国航空基地祭：米軍が市民の見学を拒否 田村順玄

危うし愛宕山 岩国基地の今 2010 年度政府予算案をめぐって（2010 年 1 月）田村順玄
市民と自治体との連携で米軍再編をくい止めよう：空母艦載機部隊の岩国への移駐はヒロシマへの挑戦 ピースリンク広島・呉・岩国発行

記者会見資料 2010 年 04 月 23 日（金）11 時 30 分開催 「海兵隊航空計画」をめぐる岩国基地との関連について：社民党 阿部知子代議士を通じて行った再質問主意書の答弁に関して 田村順玄

「正体」を現した岩国・愛宕山米軍住宅 本田博利（2010 年 10 月 20 日）